



ひょこっと来た会によるひょっとこ踊り。十ヶ平神楽社も一緒になって、境内に笑顔一色となる。

70数年ぶりに献幣使を迎えて 令和御大典奉祝祭を斎行

昨年五月一日、「平成」から「令和」へと改元され、皇居では御即位に伴う儀式が約八ヶ月間にわたって執り行われました。十月二十二日には皇居宮殿において天皇陛下は高御座に登られ、国内外に即位を宣明される「即位礼正殿の儀」が挙行されました。そして翌月十日には台風十九号による甚大な被害を受けて延期されていた「祝賀御列の儀」がおこなわれ、多くの国民の祝福を受けられる両陛下のお姿はテレビや新聞等で何度もご覧になられたかと思えます。

当社では平成度に倣って、十月二十七日、恒例の秋季大祭に併せて、「令和御大典奉祝祭」を斎行。祭典には神社本庁より臨時本庁幣（幣帛）が神社庁宇佐支部を経由して奉献されました。本庁幣は献幣使によって奉献されます。戦前は当時の地方行政の長が供進使として毎年大祭に併せて幣帛を献じていました。今度の献幣使は宇佐支部理事で当社前宮司でもある小野拓宮司にご参向頂きました。

新帝の御即位を寿ぎ、皇室の弥栄、国民の安寧を祈る宮司の祝詞奏上の後、御神前に幣帛料を奉献。



浦安の舞は昭和天皇が詠まれた歌に作曲・舞が付けられた祭祀舞
天地の神にぞ祈る朝な夕の海のごとくに波たため世を

続いて小野献幣使による祭詞が奏上されました。また御即位をお祝いで、宇佐市の辛島子供会浦安の舞クラブ（辛島早苗代表）による浦安の舞、別府市亀川のひよこつと来た会によるひよつとこ踊りが奉納され、社頭は大いに賑わいました。



小野献幣使より本庁幣が渡され、御神前に供えされる



小野献幣使による祭詞奏上

安心院高校お茶会

明正天皇御即位式図屏風展示

秋季大祭に併せて、恒例の安心院高校茶道部によるお茶会が催されました。昨年は御大典という大変おめでたい年のため、神社所蔵の「明正天皇御即位式図屏風」「明正天皇御即位行幸式図屏風」を茶席会場に設え、例年とは違った雰囲気の中での茶席となりました。お茶会後には御神前に献茶もおこなわれました。

奉祝記帳所設置

秋季大祭の二日間限定で、今度の御即位をお祝いする奉祝記帳所を設けました。多くの方に記帳戴きました記帳簿は、神社庁を通じて宮内庁へお届け致しました。



「明正天皇御即位式図屏風」(神社所蔵・複製)



遺族会館にてのお茶会

令和の大嘗祭奉祝祭齋行

供えた献納米はおさがりとして参拝者へ

十一月十四日の夕刻より十五日暁にかけて一世に一度の重儀「大嘗祭」が、皇居東御苑に設営された大嘗宮にて斎行されました。大嘗祭は新帝が即位され最初の年に執り行なう新嘗祭をさし、かつては冬至の時期に行っていました。(現在は新暦十一月卯の日)

当社の新嘗祭はその冬至の頃の十二月二十三日に行なっており、総代会にて協議の上、冬至の二十二日に「令和の大嘗祭奉祝祭」として、大嘗祭の無事の斎了を寿ぎ、その年の五穀豊穰への感謝を祈念致しました。

また祭典にはその年に採れた野菜果物を始め、大嘗祭の神田に選ばれた悠紀国栃木県の「とちぎの星」、主基国京都府の「キヌヒカリ」、そして、その米で醸造されたお酒を御神前にお供え致しました。お供えしたお米・お酒はおさがりとして、正月期間中、少しずつではありますが、初詣客にお頒ち致しました。



御神前に拝礼する神職



御神前に供えられる献納米やお酒・野菜果物

当社最大のお祭りである秋季大祭（神幸祭）は二日間にあたり執り行われます。十年前より、初日のお下り神事では神輿一基を軽トラに載せて氏子地区を巡幸してきました。昨年は令和最初の神幸祭ということで、神輿三基による巡幸を行いました。三基の神輿が地域に繰り出した事例は過去にも数度あり、近年では平成十年の第十三回国民文化祭においた98以来となります。

秋季大祭(神幸祭)

時代と共に変わるマツリのあり方



集落の入口を忌竹と提灯で飾る。集落毎に設えていたが現在は古市地区のみ。

人に見てもらうのではなく、神様に見てもらう

先日、テレビ朝日系列「ポツンと一軒家」という番組で、島根県の山里にある神社の秋祭りが紹介されました。60年前、55世帯250人もいた集落は過疎化が進み、現在では5世帯8人（全員70代以上）の限界集落となったそうです。そのため全員参加でなければ、お祭りが出来ない状況です。

このような厳しい環境の中、1000年以上の歴史がある神社に誰もが誇りを持ち、人数は減っても昔から守り伝えてきた神事を行う姿にパネリストの林修氏は「これがホントのお祭りですね」とコメント。そして、お祭りの最後には神様を神輿に遷し、集落の一番大きな田まで軽トラで巡幸します。全員参加ですので集落の家はもちろん無人。御旅所にも誰もいません。その光景をスタジオで見ていた所ジョージ氏は「人（神輿）を見てもらうのではなく、神様に（集落を）見てもらうためにするんだね」とコメントされていました。

地方において人口減少・担い手不足は切実な問題です。氏子が居なくなれば神社は消滅します。そして神社は地域の伝統文化を守ってきた大事な場所です。一度絶えたお祭り・行事を復活することは容易ではありません。この島根の小さな神社はそれを教えてくれたように思えます。

時代は刻一刻と変化していきます。先祖たちが守り伝えてきたお祭りや伝統文化を形は変われども本質だけは変わらず、少しでも永く続けていき次世代に引き継げるよう、今を生きる我々は知恵を出し合い、守っていく必要があるのではないのでしょうか。



令和2年度より神宮大麻の初穂料が値上がりします

小大麻 800円 → 1,000円

中大麻 1,200円 → 1,400円

おめでとうございます

昨年の十一月二十九日、三女神社と隔年で開催される大分県神社庁宇佐支部南部地区の神宮大麻暦頒布始祭が当社にて行われました。祭典後、表彰式も執り行なわれ、佐藤忠氏が十年以上にわたって当社副総代長を務めた功績により、永年勤続表彰を受けられました。

佐藤副総代長が表彰

神宮大麻暦頒布始祭

神社庁宇佐支部

文豪 松本清張生誕 110 年

昨年、令和元年は文豪松本清張がこの世に誕生してより 110 年の節目の年でした。平成 4 年、82 歳で逝去されてより既に四半世紀が経つ中、テレビでは清張作品の映画の再放送や、キャストを変えて新たに撮影されたサスペンスドラマ、またドキュメント番組が制作され、まだまだ人気の絶えない日本を代表する作家の一人です。

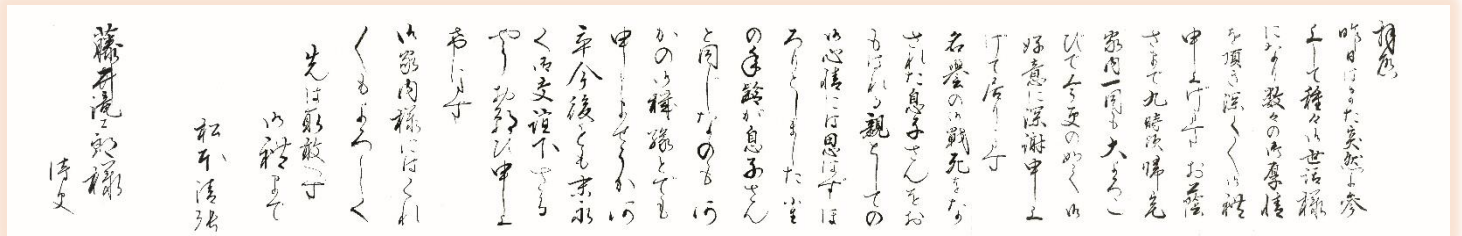
そのうち 2 番組から当社への取材がありましたのでご紹介します。



B S フジ【松本清張 ニッポンの謎に挑む】
令和元年 12 月 15 日 放送



NHK BSプレミアム 【新日本風土記 SP 松本清張と鉄道の旅】
令和2年5月8日 21 時 放送決定!!



藤井家に送られた清張の手紙を大分市の西本皆文堂のご協力により、生誕 110 年を記念して複製を作りました。

清張の手紙を撮影するスタッフ

ONSEN・ガストロノミーウォーキング In おおいた安心院 開催



去る十一月二十四日、「ONSEN・ガストロノミー・ツーリズム」が安心院町中心部で開催されました。「ガストロノミー・ツーリズム」とは、欧米で普及している旅のスタイル。その土地を歩きながら、地元の食を楽しむ、歴史や文化を知る旅をいい、日本が世界に誇る「温泉」をプラスした新しい体験が「ONSEN・ガストロノミー・ツーリズム」です。この事業は ANA(全日空)が中心となって全国各地で実施されています。多くの方に体験してもらうことで、地域を活性化させていくことを目指しているそうです。

当日は雨の中、150 人が全国各地より参加。三女神社の大銀杏や下市・折敷田・龍王の鍔絵を見学しながら、休憩ポイントでは地元の婦人会たちによる地元の料理が振る舞われました。そのうち当社は昼食会場として使用されました。



発行：妻垣神社社務所
宇佐市安心院町妻垣 203 番地
発行日：令和 2 年 3 月 15 日
電話：0978-44-2519
<http://www.tumagakijinnjya.com>